

入 試 年度	2026 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026 年 2 月 24 日
課程	博士後期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	臨床人間学専攻臨 床心理学専修
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	英 語	

「解答」または「解答例」及び「出題の意図」

D 臨 39-1 【 I 】

【解答例（採点時の観点）】

非構造的・非組織的な方法の限界点と、心理テストに代表される形式的アセスメントの利点 6 点に触れていることが採点のポイントとなる。

対象者をアセスメントするとき、専門家は、非構造的面接と非組織的観察に頼ることが多いが、これらの方法には限界がある。例えば、面接の場合、対象者は往々にして自身の歴史を正確に語ることが難しく、情報の示し方にも偏りがある。

心理テストに代表される形式的なアセスメントに基づくならば、上のような限界を補い、対象者が抱える困難さをより正確に理解することができる。以下に、形式的な心理アセスメントを用いる利点（典型的な心理面接に伴う問題を回避できる点）を示す。

（１）心理テストに代表される形式的心理アセスメントは、一般に、多数のパーソナリティ特性、認知特性、あるいは神経心理学的特性を同時に測定する。したがって、非形式的な手続きでは見落とされがちな機能の領域を幅広くカバーする。

（２）心理テストは経験的に定量化された情報を提供するため、面接から通常得られる情報よりも正確に対象者の特性を測定できる。

（３）心理テストは実施と採点の手続きが標準化されている。標準化は、意図しないバイアスによって患者に不利な影響が出ることの最小限を抑えるため、法的あるいは倫理的な問題を軽減することもできる。

（４）心理テスト（から得られる得点）は標準化されているため、それぞれの対象者を、関連する同質の集団と比較することができる。

（５）それぞれのテスト尺度においては信頼性と妥当性が研究されているため、対象者の評価にあたって、正確な判断をくだすことができる。

（６）テスト・バッテリーを利用することにより、対象者に関する幅広い情報を効率的に収集することができる。これにより、対象者に対する理解が促進される。

【出題の意図】

論文を作成する際には、先行研究の内容を正確に引用せねばならない。しかも、必ずしも当該領域を専門としない読者に対しても、その内容が確実に伝わるように記述せねばならない。本問は、その基礎的な力を問うために設けた。

D 臨 39-2【Ⅱ】

【解答例】

体験の流れにとどまる

セラピストは、もし多様な（しばしば間違った）方向づけを試すなら、自分の発言に対して(a)クライアントが何か重要なし方で反応したときと、(b)クライアントに何も体験的な反応がなかったときに、どうすべきかを知っていなくてはならない。センシティブであることは実のところセラピストが正しく応答するための魔法的な能力のことではない。そうではなくセンシティブであるとは、セラピストが語ったことに対するクライアントの次の反応に注意深く気づくことなのである。

(a)セラピストの応答は、予想とまったく異なる反応をクライアントに引き起こすだろうが、セラピストは今度はそのクライアントの反応に応答していく。センシティブティの秘密は、言うべきことを知っていることではなく、それに続く反応に応答できるよう自分を導くことなのである。セラピストは、これから言おうとすることがあまり的を得ていなかったり間違いかもしれないと思っていても、それを言った後で、その結果クライアントの中に起こる体験的な反応に応答したり、それについて質問し理解しようとする姿勢があれば、それを言うてみることもできるのである。

【出題の意図】

ジェンドリンのカウンセリングの基本的な考え方についての知識を踏まえて、英文を読解する能力があるかを見定めたい。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。